

Rector

レクター

知っておきたいキリスト教のことば (189)

牧師 ぼくし

牧師という言葉は聖書には出てきませんが、牧師は教会にとってなくてはならない存在です。

教会の顔として、また責任者として働く牧師の「牧」は、牧場や牧畜という言葉に由来します。またイエス様がご自分のことをたとえられた「羊飼い」も「牧者」と言われ、その言葉も牧師に近いものがあります。

牧師は教会において、信徒の信仰を守り、また良い方向へ導く役目を負います。羊飼いが羊たちを守り、オアシスに導くイメージです。また信徒の魂をいたわり、育てる者として立てられます。

多くのプロテスタント教会では牧師のことを「Pastor (パスター)」と呼ぶのに対し、聖公会では「Rector (レクター)」と呼びます。そこには大きな違いがあります。

聖公会の場合、牧師と呼ばれるのは、ある教会の司牧責任者のときに限ります。教会の勤務がない場合は牧師と呼ばれず、司祭(主教)という職位で呼ばれます。つまり聖公会において、牧師とは役職名だと言えるのです。

それに対して多くのプロテスタント教会では、牧師というのは「職位」に近いものです。一度牧師とされたら、基本的には一生牧師ということになります。

なおカトリック教会においては、あまり「牧師」という言葉は使わないようです。教会の司牧責任者は「主任司祭」と呼び、その人のことは「神父」と呼ぶことが多いのでしょうか。

それぞれの教会の牧師さんが、良き羊飼いとして多くの人を導くことができればいいですね。

今回は「ホサナ」です。お楽しみに。



「善き羊飼い」

バルトロメ・エステバン・ムリーリョ

(1617～1682 年)

そして、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです。

(エフェソの信徒への手紙 4 章 11 節)

